

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	国語	科 目	現代文 B	学 年	2	類 型	I・II 類型
単位数	3	教科書	精選現代文 B		出版社	東京書籍	
副教材	学習課題ノート 最新国語便覧						

学習の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。
授業の概要	評論を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、批評することを通して、人間、社会について自分の考えを深めたり、発展させたりします。また、小説では、表現に即して人物、心情などを的確に読み取ります。そのためには、文体や修辞などの表現上の特色を捉えたり、語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにすることが要求されます。さらに学習した内容を自分の表現やその推敲に役立てられる応用力を養います。

	学期	単 元	教 材	学 習 内 容	評価の観点				
					①	②	③	④	⑤
年間学習計画	1学期	評論1	ミロのヴィーナス	・筆者がどのような話題を提示しているかを捉え、段落相互の論理の展開を押さえる。			○	◎	
		小説1	山月記	・作者や時代背景を積極的に調べ、現代との違いをまとめる。 ・作品の主題が人間の本質についてのものであることを理解する。	○	○	○	◎	○
		詩歌	永訣の朝	・方言が多用された表現や繰り返しがもたらすリズムに留意して音読することにより、作品の情景や作者の心情を理解する。	○	○		◎	
	2学期	評論2	科学的「発見」とは	・事実を観察し、主体的にデータを再編し構築することが「発見」であるという筆者の考えを理解する。		○	○	◎	○
		小説2	こころ	・登場人物の性格や人物同士の関係などを的確に読み取る。 ・登場人物の言動に着目しながら通読し、物語の展開を捉える。 ・場所・時などの変化に注意して全体を振り返り、登場人物の性格や生き方について考える。	○	○	○	◎	○
		詩歌	未確認飛行物体	・音読を通じ、詩の表現の特色について関心を持ち、その効果についても考える。	○	○		◎	
	3学期	評論3	おじいさんのランプ	・テーマに対する筆者の見解の概略を、具体例における筆者の価値判断を理解する。			○	◎	
		評論3	書物の近代	・本文のテーマについて関心を持ち、「おじいさんのランプ」の主張と比較して考える。	○		○	◎	
		評論3	読み書きする身体	・「おじいさんのランプ」「書物の近代」「読み書きする身体」を、適切な観点によって比較し、自分の考えをまとめる。	○		○	◎	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準				
① 関心・意欲・態度	② 話す・聞く能力	③ 書く能力	④ 読む能力	⑤ 知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価の方法				
定期考査に加え、提出物（感想文、課題、ノート、レポート等）、小テスト（漢字テスト、確認テスト等）の成績などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や発表の姿勢・内容、積極性等も評価の対象になります。				

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	国語	科 目	現代文B	学 年	2	類 型	Ⅲ類型
単位数	2	教科書	精選現代文B		出版社	東京書籍	
副教材	学習課題ノート 最新国語便覧						

学習の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。
授業の概要	評論を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、批評することを通して、人間、社会について自分の考えを深めたり、発展させたりします。また、小説では、表現に即して人物、心情などを的確に読み取ります。そのためには、文体や修辞などの表現上の特色を捉えたり、語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにすることが要求されます。さらに、学習した内容を自分の表現やその推敲に役立てられる応用力を養います。

	学 期	単 元	教 材	学 習 内 容	評価の観点				
					①	②	③	④	⑤
年 間 学 習 計 画	1 学 期	評論 1	ミロのヴィーナス	・筆者がどのような話題を提示しているかを捉え、段落相互の論理の展開を押さえる。			○	◎	
		小説 1	山月記	・作者や時代背景を積極的に調べ、現代との違いをまとめる。 ・作品の主題が人間の本質についてのものであることを理解する。	○	○	○	◎	○
	2 学 期	評論 2	科学的「発見」とは	・事実を観察し、主体的にデータを再編し構築することが「発見」であるという筆者の考えを理解する。		○	○	◎	○
		小説 2	こころ	・登場人物の性格や人物同士の関係などを的確に読み取る。 ・登場人物の言動に着目しながら通読し、物語の展開を捉える ・場所・時などの変化に注意して全体を振り返り、登場人物の性格や生き方について考える。	○	○	○	◎	○
	3 学 期	評論 3	おじいさんのランプ	・テーマに対する筆者の見解の概略を、具体例における筆者の価値判断を理解する。			○	◎	
		評論 3	書物の近代	・本文のテーマについて関心を持ち、「おじいさんのランプ」の主張と比較して考える。	○		○	◎	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準				
① 関心・意欲・態度	② 話す・聞く能力	③ 書く能力	④ 読む能力	⑤ 知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価の方法				
定期考査に加え、提出物（感想文、課題、ノート、レポート等）、小テスト（漢字テスト、確認テスト等）の成績などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や発表の姿勢・内容、積極性等も評価の対象になります。				

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	国語	科 目	古典B	学 年	2	型	I・II類型
単位数	3	教科書	高等学校 改訂版 古典B		出版社	第一学習社	
副教材	高等学校改訂版古典B学習課題集・これからの古典文法・精選漢文・最新国語便覧						

学習の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てます。
授業の概要	古典を読む力を高め、作品の価値や内容、及び思想や感情を、構成に即して的確に捉え、ものの見方や感じ方、考え方を広く、深くしていきます。その一助として、古典の学習に役立てるための、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けていきます。

	学期	単 元	教 材	学 習 内 容	評価の観点				
					①	②	③	④	⑤
年間 学習 計画	1 学 期	説話	古今著聞集	・話の展開を把握し、古文に親しみ、話の面白さを理解する。	◎			○	
		随筆（一）	徒然草 方丈記	・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・人間や社会などに対する作者の思想や感情を読み取る				○	◎
		故事成語 寓話	推敲 知音	・本文の内容を正しく把握する。 ・寓意を含む表現について、作者の意図を正確に読み取る。	○			◎	
		物語（一）	伊勢物語	・歌物語の特徴を理解し、本文中の和歌の役割をつかむ ・登場人物の行動と心情を読み取る。	○			◎	○
		名家の文章	雑説 売油翁	・作者の人生観・政治論・名人論を知る。 ・句形の読みと意味について理解し、表現上の特色を理解する。				○	◎
	2 学 期	随筆（二）	枕草子	・登場人物の言動や心情から、人間の生き方について考える。・敬語の用い方から人物関係を正しく読み取る。	○			◎	○
		項羽と劉邦	鴻門之会 四面楚歌	・漢楚の興亡についての歴史的背景を理解する。	◎			○	
		物語（二）	源氏物語 大鏡	・登場人物の行動と心情を読み取る。 ・物語における和歌の役割を考える。 ・登場人物の行動や心情を読み味わう。	○			◎	○
		漢詩の鑑賞	中国の詩 日本の詩	・それぞれの詩を読み、文学作品を読解し鑑賞する力を高める。 ・漢詩の凝縮された表現の特色に注意して本文を読む。				◎	○
		日記	更級日記 十六夜日記	・文章の内容や展開に即して的確に捉える。 ・和歌の贈答について理解し、執筆の意図を理解する。	○			◎	
	3 学 期	儒家の思想	論語 孟子	・中国の主要な思想である儒家の主張の概要を理解する ・句形の読みと意味を理解し、文章を的確に読み取る。	○			◎	○
		物語（三）	平家物語 義経記	・表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 ・軍記物語の構成や展開を把握し、人物の心情を理解する。	◎			○	○
		道家・法家の思想	老子 韓非子	・それぞれの思想における主張の概要を理解する。 ・現代に通ずるものの見方や考え方を知る。	○			◎	○

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準		
① 関心・意欲・態度	④ 読む能力	⑤ 知識・理解
古典を読む力を高め、作品の価値について自ら考察するとともに、我が国の文化の特質や中国の文化との関係について理解を深めます。	古典を読んで、内容及び思想や感情を、構成や展開に即して的確に捉え、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにします。	古典の理解に役立てるため、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けます。
評価の方法		
定期考査に加え、提出物（感想文、課題、ノート、レポート等）、小テスト（単語テスト、確認テスト等）の成績などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や発表の内容、姿勢、意欲、積極性等も評価の対象とします。		

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	国語	科 目	古典B	学 年	3	類 型	Ⅲ類型
単位数	2	教科書	高等学校 改訂版 古典B	出版社	第一学習社		
副教材	高等学校改訂版古典B学習課題集・これからの古典文法・精選漢文・最新国語便覧						

学習の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てます。
授業の概要	古典を読む力を高め、作品の価値や内容、及び思想や感情を、構成に即して的確に捉え、ものの見方や感じ方、考え方を広く、深くしていきます。その一助として、古典の学習に役立てるための、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けていきます。

	学期	単 元	教 材	学 習 内 容	評価の観点				
					①	②	③	④	⑤
年間学習計画	1 学期	説話	発心集 今物語	・起承転結のはっきりした説話を読んで大意把握の力を養おう。	○			◎	○
		随筆（一）	枕草子	・会話や敬語に注意して、登場人物の関係を把握する。 ・宮廷生活の様子を感じさせ、中古文学への理解を深める。	○			◎	○
		逸話	不顧後患 不若人有其宝	・登場人物の心情を理解し、話の主題を理解する。 ・句法に注意して正しく訓読し、話を踏まえた主張を読み取る。	○			○	◎
		物語（一）	源氏物語	・『源氏物語』の特色を理解し、内容への関心を高める ・光源氏の心境をたどり、長編物語ならではの壮大な構想の一端を理解する。	◎				○
		評論（一）	俊頼髓脳	・和歌についての作者のとらえ方を読み取る。 ・登場人物の関係を調べて、文学的知識を身につける。	○			◎	○
	2 学期	古代の史話	唇亡齒寒	・長い文章を読み、漢文を読解し鑑賞する能力を増進する。	○			○	◎
		物語（二）	大鏡 言語活動 （問題演習）	・さまざまなエピソードを語った話を通じて、歴史物語のおもしろさを味わう。 ・藤原氏の栄華がどのようにして形成されたかを考える	◎			○	○
		漢詩の鑑賞	古体の詩	・優れた詩を読み味わう。 ・文学作品を鑑賞する能力を高める。	○			○	◎
		評論	蜻蛉日記	・自照文学として筆者の处世訓や心のあり方に注目させ人物像を考える。	○			◎	○
		明代の文章	売柑者言 （問題演習）	・明代の文章を読み、現代に通じるものの考え方を理解する。 ・漢文を正確に読んで、文意を理解する。	○			○	◎
	3 学期	近世の小説	雨月物語	・作者や作品の文学史上の位置について理解する。 ・話の展開を把握し、おもしろさを味わう。				○	◎

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準		
① 関心・意欲・態度	④ 読む能力	⑤ 知識・理解
古典を読む力を高め、作品の価値について自ら考察するとともに、我が国の文化の特質や中国の文化との関係について理解を深めます。	古典を読んで、内容及び思想や感情を、構成や展開に即して的確に捉え、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにします。	古典の理解に役立てるため、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けます。
評価の方法		
定期考査に加え、提出物（感想文、課題、ノート、レポート等）、小テスト（単語テスト、確認テスト等）の成績などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や発表の内容、姿勢、意欲、積極性等も評価の対象とします。		